

札幌市立美しが丘小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.utsukushi.gaoka.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態・地域性等

本校では、1・2年生の生活科『雪と遊ぼう』において、「1、2年生が合同で仲良く工夫すること」「寒さに負けず雪や氷を使った活動に取り組み、その楽しさに気付くこと」をねらいに10年以上継続してイグルー作りに取り組んでいる。

また、他学年でも教科や学級活動に雪を題材とした活動を積極的に取り入れている。

校区は北広島のスキー場や滝野すずらん丘陵公園に比較的近く、車でのアクセスがよいので、休日に家族でスキーやそりすべり、冬のイベント等を楽しんでいる家庭が多い。また町内会による雪や氷に関するイベントも行われている。

2. 実践 I

①実践単元名

1、2年生 生活科 『雪とあそぼう』 (15 時間扱い)

②目標

- 寒さに負けず、イグルー作りに取り組もうとする。
(関心・意欲・態度)
- 友達と仲良く工夫しながらイグルーを作ることができる。
(思考・表現)
- 雪遊びの楽しさに気付く。
(気付き)



③取組の様子

(1) 計画を立てよう

オリエンテーションでどんなものを作りたいか、どんなめあてをもって取り組むかを2年生のリーダーを中心に話し合い計画を立てた。2年生は自分が1年生の時の活動を思い起こし、昨年自分たちが教えてもらったようにやさしく教えたいという願いをもつことができた。1年生はこれからの活動への期待感を膨らませることができた。



(2) イグルーを作ろう

水をくむ、コンテナに雪を詰める、イグルーまで運ぶ、壁を補強するなどの作業を分担し、「水加減はこのくらいにするとうまくいくよ。」「一緒に持って行こう。」と声を掛け合いながら協力して作業をすることができた。

必要に応じて作戦会議を行い、計画がうまく進んでいるかどうか、もっと工夫できることはないかを話し合い、すべり台を作ったり、トンネルを掘ったりするアイデアを出し合って、次の制作の時間に生かしていた。



(3) 完成パーティーをしよう

イグルーの完成を祝うパーティーを行った。できあがった感想を発表した後は、サプライズで『ゆきだるマン』『ゆっぼろ』『おっほん』『ちっきゅん』『きよっち』が登場し、子どもたちは大喜びだった。一緒に記念撮影をして完成をお祝した。

その後は、イグルーの中で温かい飲み物とおやつを楽しみながら、これまでの活動を振り返った。振り返りカードには「1年生がすごく喜んでくれてよかった。」「雪運びがたいへんだったけど、すてきなイグルーができてうれしい。」「また来年も作りたい。」等の言葉があった。



④実践のまとめ

- イグルー作りという「雪」「冬」を活かす活動を通して雪に親しむ態度を育てることができた。
- 異学年の活動を構成することで、意欲の高まりや責任感が生まれ、寒さを克服して楽しむ原動力となった。
- コンテナに詰める、凍らせる、積むなどの活動を通して、雪の特性（凍る、締まる、溶けるなど）を体感しながら学ぶことができた。



2. 実践Ⅱ

①実践単元名

とちのみ学級 生活単元学習 『そり遊びをしよう』（7時間扱い）

②目標

- 冬道をバスと徒歩で移動し、目的地に向かうことができる。
- 他校の児童と交流しながら、そり遊びを楽しむことができる。

③取組の様子

三里塚公園まで、徒歩で移動し、4校合同でそり遊びをした。前日の大雪で新雪となった長く大きな坂で、思い切りそり遊びを楽しむことができた。



④実践のまとめ

- 三里塚公園までの長い距離の雪道も一定のペースで歩き続けることができた。帰路は、まわりの人に迷惑をかけることなくバスを利用することができた。
- 他校のたくさんの友達と仲良くなり、楽しくそり遊びをすることができた。

5. 研究のまとめ

本校では、実践Ⅰ、実践Ⅱの他に、各学級・学年による集会活動、体育のスキー学習などを通して、北国札幌ならではの寒さや雪、冬に親しみ、積極的に楽しもうとする態度の育成を目指している。

また、これらの学習を通して、雪や寒さに対する先人の知恵や雪の特性などの知識を体験的に知り、自分の生活に活かすことも目指している。

今後も、教育課程の中で雪に関する学習の明確な位置付けを行うと共に、新たな題材、教材の掘り起こしを行い、雪に関する学習の充実を図っていきたい。